

2021年3月期 第3四半期決算 テレフォンカンファレンス
Q & A 要旨
(2021年2月12日)

Q 国際物流事業におけるエクスプレス事業の採算がかなり改善しているようだが、その状況について教えて欲しい。

A 当初計画していたコスト削減策に加え、人員削減、取扱数量の減少に対応した余剰労働力の削減も含んでコスト削減を進めた結果、第3四半期の3か月間における営業損益（EBIT）で黒字となったもの。

現在、業績が改善傾向にあるものの、豪州経済の減速や厳しい競争環境などから営業赤字が継続してきた事業であり、さらなる業績悪化のリスクが存在すると考えており、エクスプレス事業の売却によって損益改善を一步前に進め、国際物流事業の採算性の向上に繋がりたいと考えている。

Q エクスプレス事業の売却検討を既に公表しているが、現在の状況を教えて欲しい。

A 現在、フィナンシャルアドバイザーを起用し売却先を選定中であり、今後の手続に影響を与える可能性があるため、コメントを差し控えさせていただく。何か決定された場合は速やかに公表させていただく。

Q 金融2社の株式保有割合を早期に50%以下に引き下げたいという意向だが、実行するタイミングについて、どのように考えているか。

A いろいろなファクターがあり、弊社の意向もかんぽ生命の意向もある。マーケットの状況等諸々のことを考えて検討し、ベストのタイミングを判断したい。

Q 今年度の着地見通しについて、日本郵便の堅調もあり、公表済みの業績予想を上回るペースだと思うが、その理解は正しいか。何か第4四半期にリスク要因があるか。

A 業績予想は据え置いたが、当初の予想は上回っているペースだと思っている。

ただし、第4四半期は不確定要因がいくつかあると考えており、さらには、新型コロナウイルスの影響は予断を許さないところがあると考えている。また、時期は決まっていないが、トールのエクスプレス事業の売却も

検討しており、それが影響を与える可能性もある。そういう不確定要素を考え、今回は業績予想を据え置いた。

Q 業績が上振れしたとき株主還元という観点でみると、増配になるのか、それとも自己株取得になるのか。

A そのときに検討をすることになる。来年度から次の中期経営計画も始まる中で、そこでどういう資本政策をとるかも考えながら決定をすることになるだろう。

Q ゆうパックの数量は、第3四半期累計では強いのだが、第2四半期から第3四半期にかけて、四半期ごとの推移を見ると、若干伸び率が鈍化している。鈍化理由について教えて欲しい。

A 今年度の前半は最初の緊急事態宣言に伴う巣ごもり需要により、ゆうパック、ゆうパケットとも対前年で強い増加を示したが、その傾向が落ちついてきた。

第3四半期は、ゆうパックは引き続き堅調であったが、ゆうパケットは弱くなってきた。理由として競争環境の影響と考えており、特にフリマサイトで差し出される発送の荷物が落ち込み、伸び率が弱くなっていると認識している。

Q 来年度の郵便・物流事業の営業利益の方向感について教えて欲しい。プラス要因としては土曜休配があり、マイナス要因は引き続き郵便が厳しいと考えているが如何か。

A 今の段階でコメントするのは難しいが、宅配市場全体としては拡大傾向にはあるだろうが、今年度上期の巣ごもり需要での大きな伸びの反動があると考えている。また、郵便が今年度大きく落ち込んだ部分がどうなってくるかは注意深く見ているところ。

郵便法改正の影響については、いきなり効果が大きく出るものではないため、来年度の損益に大きな影響はないと今のところ考えている。

Q ゆうパケットの数量が弱くなっているのは、競合の値下げの影響もあると思うが、今後の日本郵便の方針を教えて欲しい。

A 単価を下げて数量をとりにいくことは考えていない。先日、ゆうパケッ

トポストという新しいサービスを打ち出したが、サービスの改善やお客様の利便性を高めていくことで数量の回復を図っていきたい。

以 上

本資料に記載されている2021年3月期通期業績予想等将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその達成を約束するものではありません。

実際の業績等は、新型コロナウイルス感染症の拡大による影響、金利の変動、株価の変動、為替相場の変動、保有資産の価値変動、経済・金融環境の変動、競争条件の変化、大規模災害等の発生、法規制の変更等様々な要因により大きく異なる可能性があります。